

ともに・・・

R7. 12. 9

自ら考え挑戦し ともに高め合う 北杵築っ子の育成

互いの心に一足早いやさしさの花が・・・ ～花いっぱい運動～

師走を迎えた12月5日（金）、恒例の花の苗を植える会“花いっぱい運動”を行いました。この会には、地域の区長さんや民生委員の皆様14名の方がご参加くださいました。

はじめの会で、私は子どもたちに、目的を確認するために、「何のために植えるの？」と問いました。すると、「これから花のお世話をして、卒業式や入学式の時に、お花を飾りたい」「プランターに植えた花の苗を地域に持って行って、地域を美しくしたい」等の声が返ってきました。子どもたちは、確かな願いを持っているようです。

いよいよ苗植えの開始です。子どもたちは、学年に分かれて植えていきます。各学年プランター数鉢に加え、一人が植木鉢3鉢ずつ植えていくこととなります。地域の方もそれぞれの学年に2～3名ずついてくださり、子どもたちと一緒に苗植えです。

まずは、鉢やプランターに土を入れなければなりません。子どもたちの中には、どれくらいの量を入れればよいかわからない子もいて、「これくらい？」「（鉢の）どこくらいまで（入れるの）？」と、地域の方に尋ね、その質問に、「それくらいでいいよ」「まだ土を入れて」と、やさしく子どもたちに教え導いています。

子どもたちは、大事そうに鉢を一鉢ずつ抱えて、置き場に運んでいきます。

このように、地域の方との関わりを通しながら、花の苗が植えられたたくさんの鉢やプランターができあがりました。

終わりの会の感想発表では、子どもたちが、「いっぱい花の苗を植えてよかったです」「きれいに苗を植えられてよかったです」「丈夫に大きく育ててほしい」と思いながら植えました」と、苗を上手に植えた充実感や今後の苗の成長への期待が述べられると



もに、「地域の方がやさしく教えてくれました」「地域の人と仲良くなれてよかったです」と、地域の方との関わりが印象深いようで、苗植えを通し、地域の方のやさしさ・温かさを十分に受け止めることができたようです。地域の方も、「子どもたちと一緒に植えて楽しかった」と語ってくださる等、互いの心にやさしさの花が一足早く美しく咲いたようです。

ぬくもりある結びつき～たったひとりの運動会～

先日、早朝5時から放映されるNHKテレビの『おはよう日本』で、玖珠町の古後小学校が取り上げられていました。

当校は、山あいであり、今年度の在籍児童は、1年生たった一人だけの学校です。「地域で支える小学校～ひとりだけの運動会～」という内容で、学校の一大イベントである運動会の模様が全国放送されました。

入場門に地域の皆さんが紅白に分かれ整列する中、一人1年生の長尾真成君が先頭を切ったの堂々の入場です。開会式で、「長尾真成さん」と呼ばれると、「はい!」と大きな声で返事をして、指令台に上がりました。「地域のみなさん、おはようございます。今日は、楽しく運動をしましょう」と、整列している地域の方々に呼びかけます。

そして、いよいよ会が始まり、かけっこは両親と競走です。玉入れでは、地域の方も赤白に分かれます。みんな童心に返り、大はしゃぎ。玉入れの数をマイクで数えるのは、真成君。「1・2・3・・・22・23・24・26・・・」、ちょっとした間違いもお愛嬌。場内が温かい笑いで包まれます。

閉会式では、真成君が登壇し、「地域のみなさん、お疲れさまでした」と呼びかけると、「お疲れさまでした」と地域の方からのお返しがあります。そして、「運動会は楽しかったですか？」との投げかけに、「はい、楽しかったです」との返事。しっかり応答し、ぬくもりある結びつきが見えます。「ぼくは、初めての運動会をがんばりました。楽しかったです。これからもよろしくお願いします」と、力強く締めくくりました。

「たった一人だってさみしくない」運動会が終了したら、真成君が地域の皆さんに「ありがとう」と、感謝の気持ちを伝えていました。地域の代表者の方の、「みなさんの協力で、育てていく守っていくことを、これからも続けていきたい。みなさんの協力をお願いします」というメッセージも紹介されていました。

私は、この一連のけなげな真成君の様子を見て、思わず目頭が熱くなりました。たった一人で頑張る真成君と、それを温かく強力に支える地域の方々・・・

翻ってみるに、本校も小規模校であり、地域の方の温かな支えのもとに存立しています。本校も地域の方、保護者の方と一層連携しながら、地域の宝であるこのかけがえのない子どもたち一人一人を守り育てていこうと、改めて意を強くしたところです。